

R8 鈴鹿サーキット (三重県) エントリー台数 24台 観客動員数(土・日合計) 9,400人

11/5(土) 晴れ 公式予選 ベストラップタイム:2'07"855 (レース3のグリッド13番) セカンドラップタイム:2'07"974 (レース1のグリッド11番)

11/5(土) 晴れ 決勝レース レース1(20周) 11位 ファステストラップタイム:2'07"966 (レース2のグリッド10番)

11/6(日) 晴れ 決勝レース レース2(12周) 10位

11/6(日) 晴れ 決勝レース レース3(15周) 13位

合計獲得ポイント **5P**
ポイントランキング **18位**

■ 鈴鹿8耐に向けての全日本参戦。～2023年シーズンの始まり～

2022年の鈴鹿8耐で、プライベーター最上位となる4位という結果を残したS-PULSE DREAM RACING-ITEC。11月5日・6日に行われた、全日本ロードレース選手権最終戦に生形がスポット参戦した。来年の鈴鹿8耐での表彰台獲得を目標にエキゾーストをヨシムラ製に変更し、その実戦テストを行いつつライダー生形のレベルアップを見据えてのエントリー。

今回は、全日本ロードレース選手権史上初めての3レース制。フル参戦メンバーはもちろん完全なスプリント仕様。一方こちらは鈴鹿8耐仕様からライトなどを外したのみだが、そこは目的が違うところ。木曜日の特別スポーツ走行から走り始め、大きな問題もなく黙々と作業を続ける。ただ鈴鹿8耐とは気候も使うタイヤも異なるため、アベレージタイムをどう上げていくか、試行錯誤しつつ金曜日までに着実に前進していた。

土曜日の公式予選では、セッション開始早々のタイムアタックで自己ベストに近い2分07秒855をマーク。そのままアタックを続け、セカンドラップタイムでも2分07秒974を記録する。セッション終盤にもう一度アタックしたいところだったが、序盤で身体を痛めてしまっていた。そのあとすぐにレース1が控えていることもあり、切り上げてフィジカルメンテナンスを受けることに。

<決勝レース1>20周で争われたレース1。スタートは悪くなく前を追っていく。中盤は秋吉選手との10位争いを繰り広げていたが、1コーナーでのオーバーランもあり単独走行となると、そのまま11位でゴールした。

<決勝レース2>レース2は12周と短い周回。生形は3台による9位争いをリードしそのまま逃げたいところだったが、残り3周となった10周目の1コーナーでまたもコースアウト。2つポジションを落としてしまう。

<決勝レース3>そしてレース3は15周。スタートはまずまず決まったが、1コーナーでラインをふさがれてしまいオープニングラップは12番手で戻ってくる。しかもマイナートラブルが発生してしまい、5周目の1コーナーではらんだところをパスされてしまう。その後、ポジションは変わることなく13位でゴール。アベレージタイムはレース1、2より速く走ることができ、しっかりステップを踏むことができたのは、大きな収穫となった。

<生形秀之コメント>

「全日本最終戦へのスポット参戦は、来年の鈴鹿8耐で表彰台を獲得するという目標達成のために必要な一戦でした。スポット参戦なのでレギュラーメンバーに食い込んでいくのは難しかったですし、3レースはフィジカル的に大変でしたけど、ボク自身のレベルアップには最適で、いいデータ取りもできました。新たに使わせてもらうことになったヨシムラマフラーもしっかり機能してくれました。

また、久しぶりにピットウォークがあり、ファンの皆さんとお会いできたこともうれしかったですね。今回もご協力いただいたスポンサーの皆さん、応援して下さったファンの皆さん、本当にありがとうございました。」



PARTNERS

